

誠「言うことを成す」 最善を尽くす

凶悪犯罪が減少しない事実に危くする東京都では、犯罪撲滅に向けてのステッカーを1万枚作りました。そのステッカーには、鋭い目が描かれており、その描かれた絵の上に「犯罪を見逃さない」という信念の文字が躍っている。「動く防犯の目」と題されたそのステッカーは、車の車体などに貼付することにより都民の安心感、犯罪抑止力を高める狙いのもと、昨年の12月から実施されています。石原都知事は、都民の意識改革を狙いとしてはじめられたのです。今のところ効果てきめんだそうで、これにより改めて意識改革の重要性を証明したのです。

「Dare to Care（見て見ぬふりをしない）」犯罪が起きた地域の人に聞き込み捜査をしていると「実は、事件の前にこんなことがありました」という話が必ず出てくるそうです。犯罪が起きる時には、その地域に必ず予兆があるはずなんです。ところが、そこに大きな障害となつて立ちふさがりがあるものがある。それが人々の「無関心」なのです。

無関心という態度の蔓延は、地域の防犯力の弊害となり、恐ろしい犯罪

の遠因にもなる。きつと誰かがやってくれるだろう。無関心を装う。心理学者によって「ジェノビーズ症候群」と名付けられたこの現象は、その後各地で散見されるようになり、それに並行してアメリカの犯罪も増えていった歴史があります。何か問題があつても、誰かがやってくれるだろう、下手に開わりを持つて自分が巻き込まれるのは嫌だと考え「見て見ぬふり」を決め込む。結果、次第に犯罪は増え、自分が犯罪に巻き込まれても、周りの誰からも助けてもらえないような状況に至つたのだそうです。無関心とは、かくも恐ろしい病なのです。ですから、何か起きてるなあとと思つたら、気に掛けてあげる。そうした人間らしい温かい思いやりの心、助け合いの心こそが、犯罪防止に大きな力を発揮する。無関心は地域の価値を低下させ、ひいては非行や犯罪に繋がる恐ろしい病であること。温かな人と人の触れ合いを取り戻すことこそが、犯罪防止の第一歩になることを私達は1人1人理解していかなければならないのです。

話は変わります。「誠」の字を見ると、「言うことを成せ」という意味になります。人の不幸の上にとんぱんに巨万の富をつくつて、たとえ幸福感を味わつたとしても、本当はあまり大した意味はありません。しかし現代人には、そんな目先のことばかりを尊重する価値感が蔓延している様に思います。

「私」と「自分」という表現の仕方に

大した違いを感じませんが、実は次のような違いがあるようです。

「私」という言葉の意味は、一節には、食べ物を自分の方に強引に引っ張っている姿だという事も言えるのです。つまり他人のことを無視した態度を表している事になります。

また「自分」という言葉は、天与の才能に従つて生きることを言うそうです。つまり自分らしく生きるとは、天から与えられた分（天分・才能）に素直にしたがつて生きることを言います。人間は色んな心の葛藤を経て、与えられた能力を自覚することで人生の目的を掴むことが出来ます。そしてその目的遂行のために必死で能力を開発してこそ「自分らしく生きた」ということが出来ます。勝手気ままに生きることを自由とか、自分らしいと考える風潮があります。家庭では親が子に、会社では上司が部下に、本来自分らしく生きる生き方とは何かを、未来の子供達に明確に示していかななくてはいけないのです。

二宮尊徳翁が作った、感動的な道歌の中に「父母も その父母も吾身なり われを愛せよ われを敬せよ」という道歌があります。人間は一人ではありません。自分の肉体や精神の中に父母が存在しており、父母のその父母も永遠に自分の体内に存在しています。

ということは広く、現在の自分は人間が誕生した時から全ての父母の系譜を内包した存在であり、今の自分が幸なのか、はたまた不幸なのかは、全て今

までの自分が父母へ向けた、親孝行の度合いで決まってくるという事にもなるのではないのでしょうか。だからこそ自分らしく生きるとは、親に授けた天与の才能を開花させ、心から自分の人生を大切にすることであると自覚する事だと思えます。話は少し複雑で、難しい話しになりましたが、つまりは、自分を愛し敬うという事です。そして自分が出る最善の事を行い、少しでも世の中の役に立つ生き方をする事が大事なのです。ひいてはそれが、愛する親を大切に、未来の子供達を輝かせることになるのではないのでしょうか。

合掌

副住職 谷川 寛敬

